

はまだい小笠原諸島周辺海域

評価対象種：ハマダイ（小笠原諸島海域）



令和6年4月

資源の水準と動向「高位・横ばい」

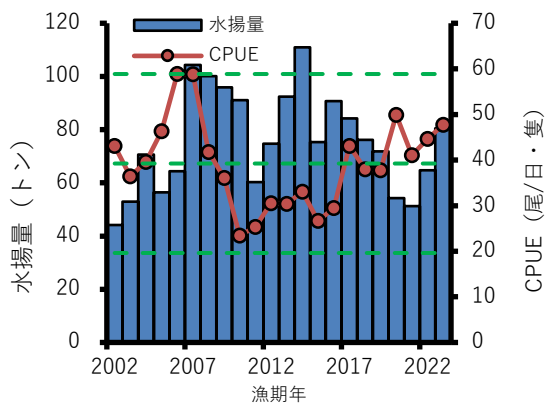


図1 水揚量とCPUEの推移

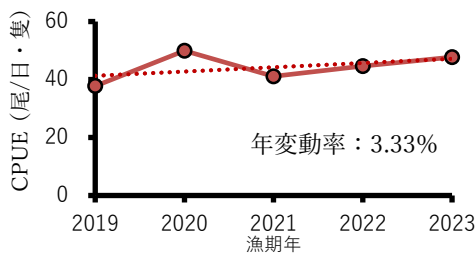


図2 CPUEの年変動率

2002年以降の小笠原諸島海域におけるハマダイの水揚量は、2007年まで概ね増加した後、増減を繰り返していた。（図1）。

一方、CPUE（父島の漁船（※）による底魚一本釣り漁業1日1隻あたりの水揚尾数）は2006年から2010年まで大きく減少したあと、再び増加傾向を示している（図1）。

本資源評価票での資源量指標値はCPUEとした。2023年における資源の水準は、CPUEが最大となった2006年の59尾/日・隻の2/3以上である47.7尾/日・隻のため「高位」とした（図1）。

資源の動向は、直近5年間のCPUEから算出した年変動率が3.33%となり年間±5%以上の増減でないため「横ばい」とした（図2）。

※各年の火山列島での操業を除く水揚量の上位から抽出

生態学的特性

- 分布・回遊：温帯～熱帯域に広く分布しており、日本では伊豆・小笠原諸島及び紀伊半島以南の水深110～500mに生息している^{1) 2)}。
- 年齢・成長：小笠原海域では尾叉長が、1～2歳で約22～28cm、4～5歳で約35～45cm、19歳以上で88cm以上となる²⁾。
- 成熟・産卵：小笠原海域及び琉球列島海域では産卵期は春～秋と考えられている³⁾。小笠原海域においては2～3年間隔で小規模な卓越年級群が発生している可能性がある²⁾。
- 被捕食関係：小型イカ類、魚類などを捕食し、サメに捕食されることがある^{1) 4)}

東京都におけるハマダイ漁

- 漁業：小笠原海域においては、東京都漁業調整規則に基づく底魚一本釣り漁業許可を受け、主に聳島列島周辺～火山列島の水深200～400mの漁場で操業が行われている。
- 漁法：底魚一本釣りにより漁獲される。
- 管理：東京都資源管理方針に基づく資源管理協定を作成し、母島では一本釣り漁業において自主的資源管理（休漁日の設定）に取り組んでいる。

- 1) 下瀬環・五味伸太郎. 2022. 令和 4 (2022) 年度マチ類 (奄美群島・沖縄諸島・先島諸島) の資源評価. 国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センター.
- 2) [東京都島しょ農林水産総合センター. 2020. 小笠原諸島海域におけるハマダイの基礎的生態と漁獲状況～ハマダイ資源の安定化を目指して～. 令和 2 年度東京都島しょ農林水産総合センター主要成果集.](#)
- 3) 海老沢明彦. 2007. 琉球列島海域に分布するハマダイの産卵期と成熟体長. 平成 17 年度沖縄県水産試験場事業報告書, pp 91-92.
- 4) Okuyama J, Shishidou H, Hayashibara T. 2019. Post-release horizontal and vertical behavior and philopatry of deepwater longtail red snapper *Etelis coruscans* around a bank. Fish Sci. 85(2):361–368.